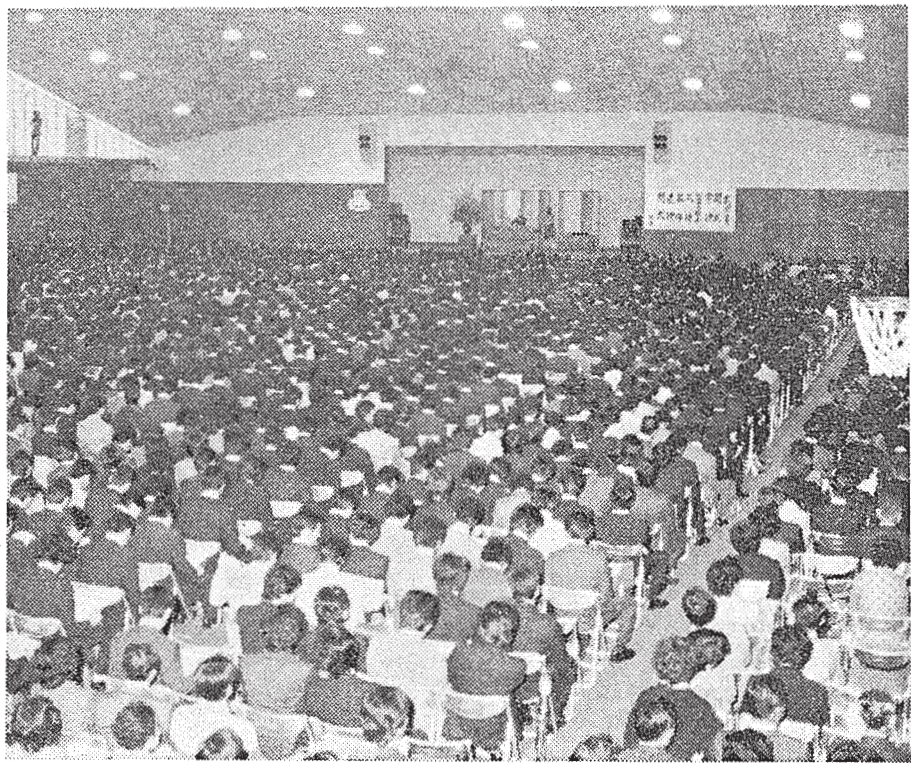




昭和56年度
晴れの卒業式

新学士4883名誕生

大学院で学位記授与式



昭和五十六年度卒業式は、三月二十五日（木）に行われる。千里山学舎では、午前十時から第一部の法、文、社会、午後一時から同じく経済、商、工の各学部、また大六学舎では、同日午後五時三十分から第二部全学部の卒業式が行われ。

今回新しく学士の称号を認められる者の数は、法学部七三二名（第一部六三〇名、第二部一〇二名）、文学部五九五名（第一部五三九名、第二部五六六名）、経済学部七四八名（第一部六五八名、第

式

二部九〇名、商学部八八八名
 (第一部八三五名、第二部五三
 名)、社会学部七四五名(第一部
 六八〇名、第二部六五名)および
 工学部一、一七五名、合計四、八
 八三名である。

また、大学院では三月二十七日
 (土)に、博士課程前期課程・修

なお、スポーツや休育の関連事業として館内ラウンドの整備工事がある。これは体育施設の充実を図るため、昭和五十三年度より逐次工事が行われ、昭和五十五年から全食糧亭の仕上げ工を行っている。しかし、この全容が出来上りては、更に更衣室などはまだできておらず、芝生の養生期間でもあるので、本格的には使用されていない。

4年間の様々な 出来ごとを胸に

士課程修了者、博士課程後期課程
単位修得者に対してそれぞれ修士
の学位記、単位修得証書の授与式
が行われる。修士の学位は授与さ
れる者は、法学二十名、文学三十
五名、経済学三名、商学九名、社
会学十名、工学一六名の計九十
名である。博士課程後期課程単
位修得者は、法学六名、文学十一
名、経済学三名、商学二名、社会
学一名、理学二名、農学二名、工
学二名、医学二名、歯学二名、薬
学二名、獣医学二名、看護学二名、
体育学二名、芸術学二名、音楽学
二名、教育學二名、言語学二名、
国文学二名、外国文学二名、歴史
学二名、地理学二名、天文学二名、
地質学二名、地球物理学二名、理
学二名、化学二名、物理学二名、
工学二名、農学二名、林学二名、
畜産学二名、水産学二名、衛生学
二名、看護学二名、保健学二名、
医療学二名、福祉学二名、社会学
二名、政治学二名、経済学二名、
経営学二名、商学二名、法学二
名、文学二名、教育学二名、心理
学二名、人間科学二名、情報科学
二名、環境学二名、健康科学二名、
スポーツ科学二名、芸術学二名、
音楽学二名、造形学二名、デザイン
学二名、建築学二名、都市計画学
二名、地域研究学二名、国際研究
学二名、比較文化研究学二名、こ
れら各専攻において、修士課程及び
博士課程前期課程と併せて、博士
課程後期課程として、それぞれの特
定分野にわたって、専門的知識及び
技術の修得を目的とする。また、専
攻によっては、博士課程後期課程に
限らず、前期課程においても、その
特定の分野にわたって、専門的知識
及び技術の修得を目的とする。

学生が卒業した年度は、卒業生

学生の学習の改訂問題がある。学
費の改訂は前年の十二月下旬に
発表され、これに抗して一部の学
生が学食備内を占拠した。それが
翌年一月十三日から実施
の予定であった学年末試験がレボ
ート試験に切り換えられた。

最後に、卒業生のもっとも関心
事である就職問題は昨年度あたり
から非常に好転し、本年度はもう

本号の内容

と 千里眼②第2面 卒業生に贈る言葉③第3面 卒業後と母校・第4・5面 思い出の学生生活⑥第6面 大学を去るに当たって退職記念講演会⑦第7面 国庫助成運動 工業技術研究所について 文化セミナー「大論」開講 コンピュータ講習会 工学部特別講演会 工技研主催講演会 工学会この一年 学生刊行物等 計報⑧第8面 差別意識の克服をめざして 世界の大学 新刊紹介 編集後記

卒業のときになつた。英語の先生はクラチエインシオン(Graduation) Degree)を「格付け」(レベル、grade)として言葉と関係がある。卒業生諸君は、文化的生産性において一段飛躍したものになつてゐることを認められたのである。一方、卒業は「漸次の、序々の」(フィニアル、gradual)という言葉とも関連がある。卒業このう事象は一日にしてならず、漸次の、日々の前進の積み重ねによつてもたらされたものだからである。「格付け」のほうは、多くの先生方や大学によつてなされるのに対し、「漸次の(前進)」は諸君の辛苦によつたのである。この両者の要件を満たした諸君が今日の喜びを迎えているといえよう。

◆

よくに學業も、自己と自己を超える他者ととの相互作用によつて前進と向上が保証される。たとえば諸君の努力も、先生の一言、キャンパスにある刺激、場合によっては就職活動を通じての実社会の人々とのふれあいなど、さまざまな他者の明示的または暗黙の働きかきに導かれてきたものといえるかも知れない。このような相互作用については、まずそれごちあらず實際的成果が問われる。大学で何を学んだのか、ということである。反面その相互作用のプロセスも問われる。大学生生活どのようにロマンチックな青春の「一コマがあったのか、ということである。▼諸君は、日々の努力を積み重ね、先生・先輩・友人の働きかけとの相互作用を経てかけがえない思い出、文化的生産性の向上など種々の経過と結果を手に入れながら、ここに到った。諸君の卒業はそのことの証しである。そのことを思い起こしながら、大学を去り行く諸君と心からの喜びを分かち合いたい。(T・H)

千里眼

君は、文化的生産性において、一段優れたものになったことを認められたのである。一方、卒業は「漸次の、序々の」グラデュアル、gradual) という言葉とも関連がある。卒業という事象は一日にしてならず、漸次の、日々の前進の積み重ねによってもたらされたものなどというのである。「格上げ」のほうは、多くの先生方や大学によってなされるのに対し、「漸次の(前進)」は諸君の辛苦によつたのである。この両者の要件を調った諸君が今日の喜びを迎えているといえよう▼このように学業も、自己と周囲を超える他者との相互作用によつて、前進と向上が保証される。たとえば諸君の努力も、先生の一言、キャンパスにあふれる刺激、場合によっては就職活動を通じての実社会の人々とのふれあいなど、さまざまな他者の明示的または暗黙の働きにかち導かれてきたものといえるかも知れない。そのような相互作用については、まずそれがあつた事実の成果が問われる。大学で何を学んだのか、ということである。反面その相互作用のプロセスも問われる。大学生活にこのようにロマンチックな青春の「ユマがあつたのか、ということである▼諸君は、日々の努力を積み重ね、先生・先輩・友人の働きかけとの相互作用を経てかがえのない思い出、文化的生産性の向上など種々の経過と結果を手に入れながら、ここに到った。諸君の卒業はそのことの証である。そのことを思い起こしながら、大学を去り行く諸君と心からの喜びを分かちあいたい。

(T・H)

卒業生 山川 雄巳

「人生の目的は、自己の能力を最大限に発揮することにある。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。」

人生一片の詩情

「人生の目的は、自己の能力を最大限に発揮することにある。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。」



文学部 田中 昭平

飾りのない人生

「飾りのない人生」とは、飾りや装束を必要としない、素朴な人生を指す。それは、自己の能力を最大限に発揮することにある。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。」

「飾りのない人生」とは、飾りや装束を必要としない、素朴な人生を指す。それは、自己の能力を最大限に発揮することにある。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。」

卒業生に贈る言葉

「卒業生に贈る言葉」とは、卒業生に対して贈る言葉。それは、自己の能力を最大限に発揮することにある。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。」



文学部 小林 英夫

何よりも自分を

「何よりも自分を」とは、自己の能力を最大限に発揮することにある。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。」

自己実現価値のデザインを



中社 卯一

「自己実現価値のデザインを」とは、自己の能力を最大限に発揮することにある。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。」

協調性のなかに主体性の確立を



前田 春典

「協調性のなかに主体性の確立を」とは、自己の能力を最大限に発揮することにある。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。」

大きく風を はらんで翔べ



田中 香織

「大きく風を はらんで翔べ」とは、自己の能力を最大限に発揮することにある。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。」



植松 健郎

「協調性のなかに主体性の確立を」とは、自己の能力を最大限に発揮することにある。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。」

培った精神の素地を 実社会へ生かせ

「培った精神の素地を 実社会へ生かせ」とは、自己の能力を最大限に発揮することにある。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。」

学会 研究会

各種の研究会で学問の場も

「学会 研究会」とは、学問の場。それは、自己の能力を最大限に発揮することにある。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。」

奨学金

期限内に返還を！

「奨学金」とは、学問の場。それは、自己の能力を最大限に発揮することにある。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。」

学生部

「学生部」とは、学問の場。それは、自己の能力を最大限に発揮することにある。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。」

卒業後と... 母校



図書館利用もできます

「図書館利用もできます」とは、学問の場。それは、自己の能力を最大限に発揮することにある。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。」

校友会

「校友会」とは、学問の場。それは、自己の能力を最大限に発揮することにある。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。」

17万人が社会で活躍

母校愛の絆で連帯の輪を

「17万人が社会で活躍 母校愛の絆で連帯の輪を」とは、学問の場。それは、自己の能力を最大限に発揮することにある。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。」

就職部

就職決定届の提出を！

「就職決定届の提出を！」とは、学問の場。それは、自己の能力を最大限に発揮することにある。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。そのためには、まず自己の能力を知ることである。」

学業・クラブ活動・交遊……様々の軌跡描き

[illegible]

開巻目づけるに「西宮八百八」など、
 三才鮎川、レボートや読者雑誌
 ため「國語復興」編つてゐた。
 ちと思ひやり読んでた所へ、い
 るゝとなつた。
 た、大学生におき、後援が
 要するれば、クラブはいらな
 かつたまでで、自分の體に
 閉じこもりが、だんだんとた
 ち、か、途で挫折す。
 一座市井と鐘師の両立で苦た
 となつた。とて何らの自負に
 となつた。また、昭和時代の
 太甚に出世を望むゝ。
 (第二部 商學部)
 過酷とその他をこなすを追い出
 された者が、サブリタナックの
 門を叩いて、四年、その間に
 は、い、商關係の味を感得
 初め大阪、天下下宿生活、始
 期、學部単位修得
 布施 恭子
 (女學院文部研究科博士課程後
 期課程単位修得)

「一、二年のこの私の大きな
みは、安易に入った電子工学の
じして、当然の事ながら、周り
個性が少ないという事でした。」

高石 妙子

花ミミルとオリンシの島、淡路島から大阪まで来て、早四十年。仕事と通学、下宿に帰れば食事の用意、そして、洗濯とすべてを自分でやらねばならなかった私にとって、あたたかくて過ぎ去った



中谷恵美子

年間で、
思いつきは、瞬気無いなが
らびた講義、授業友だちを誦
きていて遊覧者、ノート全
く読めぬ。

私の学生生活は、野球に終始し、
 といっても過言ではない。大学
 時代に敗れた後の浪人中、支え
 とれたのは野球であった。幼
 少から野球中心の生活をして
 きたたが、他の事をやるのが怖か
 ったというのが本音かもしれない
 大学に入ってから投手に転向し
 てからは、そのまわりの二手つ

（第一部・法学部）

和田 葉子

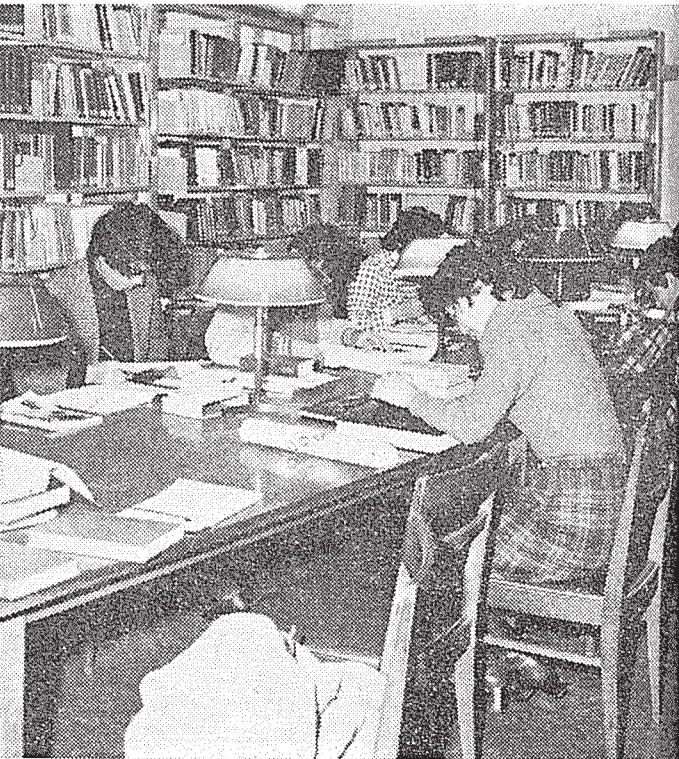


新たな未来を
模索する手がかりに

のほとんど無い事に慣習としてしまふ。そんな意にて唯の寂しいは、約九カ月間の行政試験研究室・研究室の思い出である。この研究室は一口で言えば、入会員試験合格者各自がデスクルがあるが私がぞに入つたのは三年の暮らに、翌年の七月迄、毎朝八時から夜十時前後まで、徹夜した事しばしばであった。日暮れ時、研究室から兄弟の兄弟事なれど徹夜明けの抗友人と交したキヤッチボール、スラップと少しもゆるなうて、書架中にハットを繋がりたて、それの二つが脳裏に鮮明に焼きこいてゐる。

数十年経て、大学生活の思い出として、これに類しているのは、案外と少なげかも知れない。

(第一部・法学部)



万豊 瀬 (下筆部)
 瀬 万豊

[illegible]



 相井美由紀

 自分好意なようになんとなく
 最初は帰してしまいがなが
 ながしかし、大学は、影に
 らくクラブして、自分でおか
 るつてやる姿勢をたてれば

ラブ活動・交遊…様々の軌跡描き

じての友を得ることができた。
心と心の触れ合いから生まれる
信頼、これが、私の大学時代にお
ける最大の音韻だ。

(第一部・商学部)

卒業生諸君は、母校の戦艦をながめてきた大學生
活 別れを告げる日となる。母校の、それれに
昇進した戦艦の中へ、一部・一部の戦艦を卒業せ
れる生諸君十四名、大艦隊をよぎる卒業生、名
に付く、お願いして、この四両をかりかえてい
たいだ。卒業、クララ、金、金、金、金、金、金、
卒業、住み、住み、住み、住み、住み、住み、住み、
て、て、て、て、て、て、て、て、て、て、て、て、
卒業、卒業、卒業、卒業、卒業、卒業、卒業、
の四年間をやりかへ、もう一度、来、来、
来、来、来、来、来、来、来、来、来、来、
か、それの思い出の中、新入生、新入生、
手、か、か、か、か、か、か、か、か、か、か、
て、て、て、て、て、て、て、て、て、て、
五十年間

自分一人がやり残してはからで、
その時間は驚いてくはからで、
太生といのは社内に手
太生に入て、七月、櫻にも
値れ定金は、思ひきつある
すいふふとチャなこせし。
のであつて。
トリアの期間ではを思つて、
れに見じて、たわけははが、
すいふふとチャなこせし。
のであつて。
九時半から就職検、称して勉強面
で、学部時代に習得した知識を
問とてはで、目の力や
問としてで、目の力や
出るとが、いかなすはく
問限限いものでもないうと
少しはり、専門に傾いてある
ううたが、その年、研究部
に入つたが、私の年、クラフ
を中心にすきまといては過言
言はは、それ、私に
大層な得意であつた。次から次
と先に進み、研修のレポートにつ
いては、何段もよく思つた
か知れた。それでも、もうし
頭張つてなうと、思ひ、直すう
に、とて、卒業の時を迎えて
しまつた。
四年間の活動を通じて、スハイ
ン語に熱したて、スハイ
語がクラフで知り合、た友
人、先輩、後輩が、スハイ語
以外にも多量な仕事で知られ
た。特に三年次の時は、銀行部の
二年、夜校にいる以の時、二
年、夜校にいる以の時、二

（第一部・経済学部）
酒井 公子

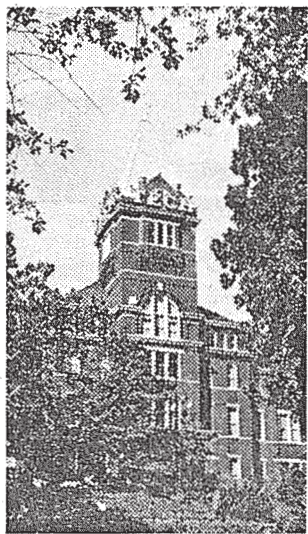
[illegible]

(第1期・文学部)

小林 幸子

[illegible]

世界の大学



ジョージア工科大学

は州旗と尋常旗それに南軍の旗が立つ。郊外の名所、巨大な石山にも南軍旗を中心に南部諸州の旗がひるがえっている。

しかし、南部はいまだ大きく変容しつつある。西海岸に至った産業化の波は陽光の南部に押し返している。世界一のアトラシタ空港も完成するのだから。

一九八五年創立のジョージア Tech (Georgia Tech) は科大學と訳されるが、工學部、建築學部、経営學部、文理學部等々を擁し、面積約三万五千坪、一万余の學生は世界六十カ國から集まる。南のMITを自指す活氣は「明日に希望を」そのもの。

る。本学全体の問題でもある。この点の自覚なしには、解放教育の前進はないと思われ。

本学全体の問題といふことは、いかえれば、本学構成員個々の問題といふことである。たとえば、「私」の問題であり、「君」の問題であるといふことである。差別にかんして「私」と「君」を結びつける共通項は、反差別であり差別とのたかに他ならないだろう。この共通項を軸にして、それぞれが、差別問題をわがものとするのである。

しかし、「私」「君」「君」であれ詳細な自己検証なしには、問題をわがものとはできないだろう。この自己検証の作業が行われ

「たゞ、教育、研究の機関としての本学は、解放教育の主旨に即して、きまざる啓発活動を展開してきたが、今回のような状況に眼を向けつつ、より実効を發揮する方途を講じなければならぬ。そのためには、従来の解放教育のありかたを、今更でもういちど考慮する必要がある。それは、たゞ『部活解放論』の教授法上の裏腹を言明して、具体的に検討するだけではあつて、一例として、講義担当者や受講生の有機的關係、あるいは受講生間の相互學習の啓発を實現しようとなすを言ひたいのである。」

と云ふ事を述べたに他ならぬ。今後の啓蒙活動を検討すべきである。

大学では本来、学習者たる学生諸君が、主体的に対象となる諸問題にかかわるべきである。この自覚なしには、大学を学びこの意識を消え失せぬはず、部落解放論の講義の主旨は、受講生各人に差別に対する自覚を促す面にある。そこで問われてゐるのは、受講生各人の「自己」である。これは、あらゆる講義に関してもいふべきであるが、漫然と講義に参加するだけの非を得られなくなるまい。(部落問題委員会委員長)

・文学部教授

新増補、修正改訂ではない新編集である。一例を挙げれば補本人麻呂の歌「阿闍の野に宿る旅人打ち靡き眼も寝あめやもいにしへ思ふに」の「いにしへ」を、旧版校本では全古写本とも「古部」と記す²と見ているが、新増補では元暦校本を再検討し、その「古」が実は「去」の草体であると指摘する。「去部」が原形に近いのである³。

この新増補で全巻にわたる校合が、新たに果たされたのは神宮文庫本である。その書写時期は室町末まで下ると雖も、系統的には寛元の姿を最も長く留めたと評価される。萬葉研究史上に最重要の存在である仙覚が、鎌倉中期に

その人の萬葉學の、形成過程を伺い得る資料としても重要である。この本は伊勢の神宮文庫に蔵されており、先年漸く複製本が刊行され、明細な校合が可能となった。第十一冊は新増補の第 一巻に当たするため、巻頭に「新増補解説」六十五頁を付す。(谷永永一)

経済学部教授 鶴岡陽輔編著
「部落産業の
現状と課題」
(解放出版社・二〇〇六)

被差別部落の産業振興が、部落問題解決の重要な対策の一つとなれながら、これが同和対策事業の中核をなすことはなかった。部

今回、東井正英経済学部教授の還暦をお祝いして、東井教授編『現代日本農業経済論』（富民協会）と『現代日本の農業問題』（二冊の大書が出版された。この両方で合計二十七人の著名な農業経済学者が筆をとっており、東井教授の学界での活躍とその位置をうかがわせるものである。

さて、本書は東井教授自身が解題的に問題を提起されている序文に「現代資本主義と農業問題」にはじまり、第一編「日本農業の国際環境」、第二編「日本農業と土地問題」、第三編「食糧問題と食糧制度」、第四編「農業生産力構造の持

ひに学生面長から言葉をい
たいた。また、大学を巣立
第一部・第二部の各学部卒業
生と大学院修士生の十六名の
諸君に、思い出を語って
いた。さらに三月をま
て定年を迎えられ、本学を去
られた先生方に、遺稿をお願
いした。

この骨が、今年の卒業生の
心に響くべきを願ひてはあ
ちろんであるが、新三、四
年次生、新大生院生にも、卒
業生を送る気持ちで読んでい
たなくと同時に、自分のゾ
ールを見つめる素材として役立
てていただければ幸いであ
る。△金田・広田（俊）

総合コース「部落解放論」の一受講生が、年間をふりかえって書いた感想文を本人の承諾を経て紹介する。法・文リヌスのA君にてね」。

「部落解放論」受講生の反省
A君の感想文は次のようなものであった。「……講義には出席していたが、熱心に聞いていたとはいえず、前期が終わるにつれていた。前期最後のまとめ討論会では、自分の今までの考えを全部吐き出してしまったような気がした。けれど、よく考えてみると、その内容はかなりいいかげんな部分があったし、偏見もあった。そしてそれがこのようなことを意味するのかもしれないと思えていなかった。

その後、夏休みから十月のまとめ討論会に至るまで、ぼんやりと悩んでみて、今までの知識のなま

と部落問題の根の深さがわかってきたように思った。この時、これまでの自分が恥ずかしく思えてきたし、もっと真剣に考える必要があると思った。それから今まで、さらに本を讀んだり講演会を聴いたりして、多く考えさせられることがあったけれども、現在は、部落問題はその他の差別と無関係ではない、部落差別はもうぐん、全ての差別を許さない人間にならないといけないと思っている。今までのことを反省材料にして、自己変革していきたいと思う」。

この感想文にもあてられているように、A君は昨年六月二十五日に行われた、まとめ討論会で部落に関する自分の考えを一気に発言していった受講生の一人である。その発言内容は露骨に部落の人たちを罵つてくるような差別観念にあふれていた。

「解放論」のまとめ討論の中で、愛護生の差別発言があった。これにより、まことに重大なことになるのではないかと。これは、当該の

六月の手こめ討論では、本学で発言された差別発言を取りあげて議論していたのだが、先のA君のほか商・エクラスでも三人の愛護生から同種の発言があった。担当者と愛護生のノートにもつづいて、その発言内容を復元したうえで、当事者にも確認を求めたものの中から、特に問題になる箇所

差別器

「部落はこわい」という差別根

差別問題をめぐって

受講生諸君が、結果的には講義の提起する問題をわがものとしていなかったことの証左であらう。しかし、今回の問題は、たんにこれ

て

「小川 悟
ない時には、わがものにすぎない」
るか、「……と人がいっている」
「とが」「……と聞いたことがあ
ある」といふ形、きくに無批

わけてではないし、よきものや、
と云つて弊を持つて追いかげられ
た事実もないが、その直後友人か
らあの辺に部落があると聞いたの
のだから、自分のこゝろがたゞ
と結びついて「部落はよい」と
いう觀念が形成されて、つたつと

本学の啓発活動としての講演
会に際しても、担当者の努力にも
かわらず、聴講者の数も、しつ
とも多いとはいえない。特にこの
夏は、千里山学会においてみられ
る。遺憾であるという他はない。
しかし、天六学会においては、学
生諸君の積極的な参加が、講演
会をかなり活発なものにしている
因がある。これは、あらゆる講演

今回の差別発言の問題点であり、今後の課題でもある。この事項をあげて、討議の出発点にした。

(一)「差別は悪い」という考え方もはや常識として片づけられる一方で、事実無根の事実を誇る

BOOK
新刊

文学部教授 木下正俊
神堀 忍ほか編

「校本萬葉集」十一

(岩波書店・二二〇〇円)

ていくのか。

(4) 学生が部落差別を見抜き、許さない力量をつけていくために、担当者はもちろんのこと、大学全体がどのような具体的姿勢をとっていくのか。

そのような問いかけがきつつけられていくように願望する。

「部落解放論」テーマ代表者
・社会学部教授

紹介

彼の四十四歳の折、校定した本文が寛元本である。同じ仙寛が二十一年後に再び校定した文永本に較べて、寛元本は未熟な部分を残してあるが、一方また仙寛以前に比べていくのか。

本書は、部落産業をわが国の社会、経済全体の中で体系的に把握し、そのあるべき姿を行政施策と関連づけてつづ究明を試みた最初の共同研究である。

本書が部落産業の本格的な検討のきっかけとなり、さらに部落問題の認識を深めるために、ひとりでも多くの人々に読まれるよう願わずにはおれない。(上田達三)

経済学部教授 東井正美
ほかが編著

「現代日本の
社会問題」

民衆的課題である。しかしその内容には必ずしも明確ではないし、財界や労働界の声、それを担ぐ一部御用学者によってますます不鮮明にされている。それに鋭く切り込み今日の「農業問題」をあざやかに浮き彫りにしてくれている。最後に東井教授の一層の御活躍を期待したい。

(生田 靖)

卒業生特集号をお届けします。この号では、卒業生諸君との別れを惜しみながら、その新しい門出を祝って、学長の

編集後記



授業をふりかえつて

昭和七年、幾合コース開講以來、「部落解放の「前問まめ討議」における受講生の「発言」因表音節にも同様の問題提起がなされた。大学ではえてみる要機とするために、指摘された問題点をに関連して、示像に富む一文を寄附せたい。」

田宮武

昭和五十六年度のこの講座
その場に居合わせたテーマ代
の問題について、いまだ一度考
査委員長に、このような問題
を報告したい。

ことをト言つたために血まみれ
になつて歸つてきた」とがある
(その後のやりとりで、B君は
「えつたは死ぬ」といふ落書を
示して、少し違はれど「地上
から消えなう」といふ内意だつた
と察した)。

同C君——僕の親父は部落の隣
りの地域に住んでゐたのだが、そ
の部落の子と喧嘩し、親父はガキ

の中で部落の人を「その筋の人」といった点について、日本人とは血筋が違うという考え方で部落差別になるや担当者が指摘する()
 一つ一つの言葉に差別語や差別語やいって、そんなに力リカと神経をたがらすのは、おかしいと思う(十人前後の受講生から賛同の拍手が起った)。
 発言内容の差別性

が分かった。そのほかの話は、ルバイト先の同僚と父父親から聞いたうわさであるが、それに何も疑問を感じなかったようである。

またB君は手とめ討論のあと自分の発言に不安を感じて、その友人に電話で確かめたところ「血まみれになって」の発言は誇張であったと認めた。C君は最初家族から同じ話を何回も聞いてこの

(2) 「部落は優遇されてい
る」という考え方に見られるよう
な、観念が部落の人権を侵害してい
る。事実をどのように克服してい

落産業の体系的な実態把握がなされなければ、断片的な対策が行われる場合には、部落問題の解決、部落解放の全体的な視点から十分なだけでなく、時にはかえって部落差別を助長したり、新しい問題を引き起こすことになる。

一章、部落産業の体系的把握のために(鶴鶴) 二章、生産関係にみられる部落問題と同対事業の実態

食糧と統制政策との日本農業の構造的関係問題に到達する。つまり日本の農業問題にアプローチし、今後の主要問題にアプローチし、今後の主要問題にアプローチする、という構成である。13章からなる全ての章に、表題に最適な執筆者が配されているので、二読すると、コンダクター

BOOK
新刊紹介

文学部教授 木下正俊
同 神堀 忍 ほか編
「校本萬葉集」十一
(岩波書店・二〇〇〇円)

彼の四十四歳の折、校定した本文が寛元本である。同じ仙覚が二十年後に再び校定した文永本に較べて、寛元本は未熟な部分を残して

経済学部教授 東井正美
ほか編著

「現代日本の
歴史問題」

卒業生特集号をお届けします。この号では、卒業生諸君との別れを惜しみながら、その新しい門出を祝って、学長の

► 編集後記 ◀